



学校・家庭・地域の連携による 教育力の向上に向けて

石川県教育委員会生涯学習課長 篠原 恵美子

石川県社会教育協会の皆様には、日頃より、本県の生涯学習・社会教育の振興に多大なるご支援をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。また、昭和23年の貴協会発足以降、長きにわたって県内の生涯学習事業に関する調査・研究、講演会の開催、機関誌の発行等を経てこられたことに深く敬意を表する次第です。

さて、近年、都市化や過疎化の進行、家族形態の変容、価値観やライフスタイルの多様化等を背景として、家庭内の人間関係の希薄化、地域社会等のつながりや支え合いの希薄化により、家庭や地域の教育力の低下が懸念されています。

かつては、兄弟姉妹も多く、また、祖父母と同居していることは一般的でした。また、地域の人々とのつながりも密接であり、皆が子どもたちを自分たちの地域の子どものように見守り、育てていました。そのような環境の中で、子どもたちは周囲の大人から教えられ、あるいは自分よりも年下の世話をすることなどの体験を通して、規範意識や礼儀、思いやりの心などを、知らず知らずのうちに学んでいました。

社会が変化した今、すべての家庭や地域というわけではありませんが、かつてと同じ形の教育力を家庭や地域に求めることは難しい状況になりつつあります。しかしながら、子どもたちが、社会を生き抜くために身に付けていかなければならない力は、今も昔も変わりはありません。子どもが健やかに成長するためには、教育の出発点である家庭と、多様な人との関わりや様々な経験ができる地域の教育は、時代が変わっても欠かすことのできない重要な役割を担っています。

このような状況の中、生涯学習課では、大人が模範となり、青少年に公共マナーの大切さや交通ルールの遵守を呼びかける「グッドマナーキャンペーン」のほか、親子それぞれの思いを「短い手紙」に託し、家族のコミュニケーションを図る「親子の手紙」、子どもたちに自然体験の機会を提供する「いしかわ子ども自然学校」などの各種事業を実施するとともに、学校・家庭・地域が連携し、家庭や地域の教育力の向上を図る事業を重点的に取り組んでいます。

家庭教育支援に関しては、「肝心かなめの1年生塾開催事業」を実施しており、この事業では、子どもの発達や脳科学などの科学的な根拠をもとに、子どもの発達段階における親の役割や、脳育てにとって重要な事柄を掲載した冊子を作成し、この冊子を活用した親学び講座を、小学校で行われる就学時健診や入学説明会などの機会に、県内すべての小学校で開催していただいております。講座では、脳科学の専門家の講座を受講された校長先生・教頭先生、元校長先生などに講師になっていただきました。同様に、新中学1年生の保護者に対しましても、中1ギャップや思春期の特徴などの理解を深めていただくため、冊子の配付や講座の開催を行っております。この事業を通じ、保護者の家庭教育への学びを深め、家庭の教育力の向上を図りたいと考えております。

また、様々な経験や技能を持つ地域の人材や企業等の豊かな社会資源を活用した「土曜日の教育活動推進事業」にも取り組んでおり、この事業では、昔遊びや伝統芸能の体験、郷土学習や科学実験教室など、普段の学校の授業で学ぶことのできない学習機会の提供により、子ども達の学ぶ意欲が高まり、学力の向上が期待されるとともに、多くの地域の方々が学校に協力することで、学校・家庭・地域の連携が強まり、地域の教育力の向上も図ることができると考えております。

変化の激しい社会にあって、今後、子ども達が健やかに成長するためには、学校・家庭・地域が相互に連携し、社会全体で子どもを育むことがいっそう重要となります。

貴協会をはじめとする社会教育関係団体の皆様には、今後も連携の橋渡し役あるいは人材の提供役としてご活躍いただき、これまで以上に本県の教育振興に関して、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。